

湘南科学史懇話会 講演会 100 回記念によせて

湘南科学史懇話会の講演会が 1998 年の第 1 回から 23 年間にわたって、平均
ほぼ二か月半の間隔で中断なく続けられ 100 回を数えると聞きました。これは
文句なしに快挙です。

回数だけではありません。懇話会発行の『実践的な在野学の冒険—湘南科学
史懇話会の歴史』を見ると、その毎回の題目（テーマ）の多彩さと守備範囲（フ
ィールド）の広がりには圧倒されます。

講演会を 1 回開催するだけでも、テーマの設定や講師の選択には相当の知識
と学習と調査を要求されるでしょうが、そのことを含めて懇話会代表の猪野修
治氏が、テーマ設定、講師依頼の交渉、会場の確保、情宣、事後報告のすべて
を、なにひとつ公的資金もなく実質上一人で 20 余年間にわたって毎回やってこ
られたことは、驚異的ですからあります。

猪野氏のあくことのない旺盛な向学心と好奇心、そしてパッションとバイタ
リティーが生み出した無二の歴史であり、そのことは大学だけが学術や文化を
担っているのではないことを実践的に示したものと言えます。「在野学の冒険」
の誇るべき成果です。

私自身、ほとんど協力したこともないのにこんなことを言うのははなはだ気
がひけますが、さらなる発展を願っております。

2020 年 8 月 19 日

山本義隆